

South Wind

サウスウィンド Mar. 2025 Vol.106

特集

みやざきインターナショナルフェスタ 「ワールドテラス2024」



Contents/ 目次

特集 みやざきインターナショナルフェスタ 「ワールドテラス2024」……	2,3
多文化共生社会をめざして……	4
Hear! Here Voices ～ 中野 マルセル さん(ブラジル出身)～ ……	5
JICAデスク宮崎より ～ JICA海外協力隊の紹介～ ……	6
宮崎県国際交流協会ニュース ……	7
INFORMATION ……	8

9月に宮崎公立大学で開催された、みやざきインターナショナルフェスタ「ワールドテラス2024」のステージ発表の様子です。ミャンマー出身の留学生たちが、『ミンガラバ（ミャンマー語で「こんにちは」を意味する）』という曲に合わせ、しなやかな手の動きが印象的な、華麗なダンスを披露してくれました。



公益財団法人 宮崎県国際交流協会
<https://www.mif.or.jp>

国際交流イベント



みやざきインターナショナルフェスタ ～ワールドテラス2024～

9月21日(土)、宮崎公立大学にて、宮崎青年会議所・宮崎公立大学との共催により「みやざきインターナショナルフェスタ～ワールドテラス2024～」を開催しました。当日は多くの方が来場され、外国人住民との交流や県内の国際交流団体等によるブース出展、世界や日本の伝統文化体験ブースに加えて、世界の音楽やダンスなどのパフォーマンスを楽しめました。ご来場いただいた皆さま、運営にご尽力いただいた皆さま、本当にありがとうございました！

Friends of the world area 世界とトモダチ交流エリア



ベトナム



シンガポール



キルギス



ミャンマー



エジプト・モロッコ



バングラデシュ



インドネシア



イギリス



ドイツ・オーストリア



中国



MHUB 宮崎市外国人向け相談窓口



宮崎市国際交流協会



清武町国際交流協会



JICA



宮崎ブラジル親善協会



宮崎県国際交流協会

Traditional Japanese Culture Experience 日本伝統文化体験



茶道体験



鎧兜の試着



Stage Performance 世界の音楽と踊り



伝統楽器「二胡」の演奏



スリランカの歌



キルギスの歌



ネパールの踊り



ミャンマーのダンス



インドネシアの楽器演奏と歌

第19回「外国人が見た宮崎」アート作品展

宮崎県に住む16の国・地域出身の59名の外国にルーツを持つ方々から、写真29点、絵画6点、書道39点、手工芸7点の出展がありました。来場者の投票により決定した今年度の最優秀賞作品と受賞者は次のとおりです。

【写真部門】



「『青島水族館』完成後の一息」
オン ユーディン さん
(シンガポール)

【絵画部門】



「冷や汁」
ヤン ヘジョン さん
(韓国)

【書道部門】



「陽炎」
ゲツ エヴァン さん
(アメリカ)

【手工芸部門】



「どこにいても花いっぱい宮崎」
ムラカミ ジン さん
(日本)

多文化共生社会をめざして

令和6年12月7日（土）に、田村太郎氏を講師に迎え、多文化共生に関する講座を開催しました。

講演「外国人と共に拓く地域の未来～持続可能な社会の形成とダイバーシティ」

日時：2024年12月7日（土）午後2時～4時 場所：宮崎県企業局 県電ホール



日本の在留外国人数は2024年6月末時点で約359万人、過去最高を更新しており、宮崎県内にも1万人を超える外国人が住んでいます（出入国在留管理庁2024年6月末データより）。一方、宮崎県における少子高齢化は深刻で、持続可能な地域社会の形成には外からの人の流入が不可欠になってきています。外国人住民と一緒にどのように持続可能な社会を築いていけるのか、外国人に選ばれるためには何が必要なのか、多文化共生の第一人者である田村太郎氏を講師にお迎えし、そのヒントを探りました。

講師プロフィール 田村 太郎氏（ダイバーシティ研究所 代表理事）



阪神・淡路大震災での外国人被災者支援を機に「多文化共生センター」を設立。自治体国際化協会参事等を経て、2007年に「ダイバーシティ研究所」代表として、自治体施策や企業の取り組みを通じた人の多様性に配慮のある社会の形成に携わる。総務省の「多文化共生推進プラン」（2006、2020改訂）や外国人の受入れ・共生に関する関係閣僚会議の「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」（2022）の策定に有識者として関わるほか、自治体の多文化共生やダイバーシティに関する指針の策定にも数多く参画。

講演からのKeyメッセージ 講演の内容より、一部ですが以下にご紹介します。

■必要なのは「まなざし」の変化

コロナ禍やテレワークの進展で人々はますます“自由で寛容な居心地のよい場所”を選んで居住するようになると予想されます。自由で寛容な居心地のよい場所とはどういう場所のことでしょうか。

・自分らしく生きる未来が展望できる場所

- ▶このままここにいても将来の展望が開けない町からは人が去っていく
- ▶従来の価値観や社会慣行からはみ出る人が損しないコミュニティづくりが大切

・参加することの有用感とそこにいることの安心感がある場所

- ▶自分の存在が周囲から承認され、自らが価値が感じられる
- ▶コミュニティの一員としての居場所があり、心理的な安心感がある

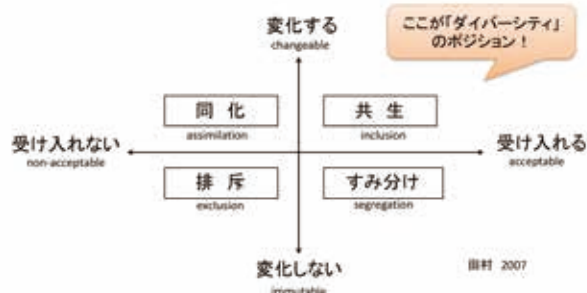
■ダイバーシティとは／マジョリティの不安の解消

ダイバーシティとは「多様性」と訳されるが、それだけでは不十分。「人の多様性に配慮しながら、次の3つの状態を満たす組織や地域をめざす取り組み」と定義したい。

- ①さまざまなちがいを受け入れる
- ②互いに対等な関係を築こうとしている
- ③全体として調和がとれている

ダイバーシティがめざすべき方向性

- ・少数者が社会に適合する生き方を模索させられる社会ではなく、これまでの働き方や生き方を**社会全体で変えていく**ことがダイバーシティ



残念ながら日本も世界も現在、上の図の「すみ分け」の状態にあり、「共生」へと移行するためには、「受け入れる日本人側（マジョリティ）の不安の解消」が非常に大事である。

■多文化共生分野の人材確保／視点のズレをどう埋めるか

深刻化する「地域で働く担い手の不足」を解消するためには、外国人を「安い労働力」としてではなく、「地域に新しい価値を持ってくる人」として、外国人受入れを見直してください。そのためには、日本語教師や外国人をサポートする相談員を増やしていかなければいけない。そして、ニーズにあった情報や施策を提供していくためには、対象者である外国人にも情報や施策の提供側にまわってもらうことが大事。



■これからの地域づくりに求められる視点

・地域の持続可能性を直視する

産業を支え、地域の助け合いを維持するために、高齢者や女性だけでなく、外国人の力も借りる必要があることを認識する。

・新たなつながりで地域を活性化

近年は伝統産業や農業などの分野でも外国人が幅広く活躍している。日本人では思いつかない発想や出身国とのつながりで新たなビジネスチャンスが広がることも。

・付加価値の高い産業へ転換を図ることで地域を存続させる

産業や雇用、教育など地域のあらゆる面で「国際標準」を意識する。品質や環境、人権の分野で付加価値の高い産業クラスターを形成し、地域そのもののブランド価値を向上させよう。

参加者の声

印象に残ったことは...？

- ・「違いを受け入れ、ともに変化する」
- ・マジョリティの不安に向き合い解消することの重要性
- ・誰かが何か不利益をこうむるのか、誰かが損するのか、それがなければ新たなルールを作ればよい。
- ・外国人の出稼ぎ時代は終わった、家族で住みつく環境を作れない地域は無くなるということ。
- ・外国籍の方々が安心して暮らせる社会は、その社会に属するすべての方が安心して暮らせる地域づくりになる
- ・外国人の方が日本に暮らす理由の変化。収入目的ではなく、安心、安全、暮らしやすさなどの身近な幸福を求めて日本に来ているということ。

Hear! Here Voices

中野 マルセルさん

ブラジル、サンパウロ出身。

日系 4 世で、高祖父は国富町出身。

県費留学生として、令和 6 年 4 月より宮崎国際大学で国際関係を学んでいる。

県費留学生とは？

本県出身の海外移住者が最も多いブラジルから留学生を受け入れ、宮崎で学び、地域の文化や伝統に親しむ機会を提供することで、帰国後も本県との文化交流や親善に貢献していただくことを目指しています。昭和 41 年の事業開始以来、これまでに 91 名を受け入れています。



ご家族について教えてください。

1928 年に、国富町出身の高祖父が高祖母と 6 人の子どもを連れてブラジルに渡りました。高祖父家族はサンパウロのコーヒー農園で働いていたと聞いています。

次男であった曾祖父は、同じ日系 1 世の曾祖母と結婚をし、祖母が生まれました。そして祖母もやはり同じ日系 2 世の祖父と結婚し、母が生まれました。祖父は 40 年ほど前に日本を訪れ、千葉県に家族や、祖母方の国富町の家族にも会ったそうですが、実は祖母も母も日本に来たことがありません。私も今回が初めての来日です。



祖父母と私



日本語はどのように学ばれましたか。また、これまで日本文化に触れる機会がありましたか。

父がイタリア系ブラジル人なので、家族と話す時はポルトガル語です。祖父母は、子どもの頃に第二次世界大戦が始まり、公的な場での日本語の使用が禁止された時代も経験しており、日本語よりもポルトガル語を使うことが多かったようです。母はサンパウロにある日本語学校で日本語を少し学びましたが、祖父母と話すときは、いわゆる日本語の話し言葉で、私も同じく、話し言葉が少しわかる程度でした。

高校卒業後は、ポルトガルの大学に進学し、経済とビジネスを学んだのですが、その時に日本語のクラスをとり、初めて日本語を学びました。ただ、基本的なことしか学ばず、卒業後はそのままポルトガルでドイツ語を使う仕事をしていたので、日本語を使う機会はありませんでした。

現在は、宮崎国際大学で日本語の授業も受けており、JLPT（日本語能力試験）の N3 合格を目指しています。

日本文化に触れる機会はあるにありませんでしたが、日本のアニメを見たり、日本料理を食べる機会はありませんでした。家族も日本料理が大好きです。我が家では、毎年 1 月 1 日に餅を食べることが習慣になっています。



ポルトガルで所属していた楽団では伝統楽器カヴァキーニョを演奏（左から 2 番目）

宮崎に来る前は何をされていましたか。

来日する 1 年ほど前にポルトガルでの仕事を辞め、ブラジルに帰国しました。ポルトガルの市民権を獲得した後だったのですが、帰国した一番の理由は、年老いた祖母の近くで過ごしたかったからです。実は祖母は 1 か月ほど前に亡くなってしまい、あの時の自分の選択は正しかったと感じています。

ブラジルでは父が友人と経営している会社で働きながら、県費留学生の申請に必要な書類を集めたり、語学の試験を受けたりしていました。

県費留学生に応募したのはなぜですか。

母のいとこが、2006 年に県費留学生として私と同じく宮崎国際大学で学んだことがあり、その時の話をよく聞いていました。ポルトガルでの生活やヨーロッパでの旅を通し、ブラジルとは違う文化に触れることの楽しさと心地よさも感じていました。自分のルーツのひとつである日本で学ぶことはとても良い経験になると思いました。

宮崎での生活はいかがですか。カルチャーショックはありましたか。

宮崎は太陽が燦爛と降り注ぐ暖かいところだと聞いていたのですが、来日した 4 月 5 日、雨と風が激しく、驚いたのを覚えています。その後、夏を経験し、宮崎は太陽の国だと実感しました。ただ、サウナのような湿気にはなかなか慣れませんでした。

宮崎国際大学では国際関係を学んでいます。留学生も多く、様々な文化を持つ仲間と囲まれて、楽しく生活をしています。宮崎は、喧騒の街サンパウロとは違い、とても静かで暮らしやすいです。人にとっても優しいです。名物の地鶏やチキン南蛮、辛麺、焼酎も大好きです。



大学の仲間と

ブラジルでは誰かと会った時に挨拶としてハグをする習慣があるのですが、宮崎に到着し、これまでメールでやり取りをしていた県庁職員の方に、会えたうれしさと感謝を込めてハグをしたら驚かれてしまい・・・それからは気をつけるようにしています（笑）また、日本ではクリスマスを恋人と過ごす人が多いと聞いて、ちょっとびっくりしました。ブラジルでは、基本的に家族と過ごします。

あと、コンビニは 24 時間営業で、何でも揃っていてとても便利ですね！ブラジルにはそのようなお店はありません。

好きな日本文化はありますか。

日本の歴史に興味があるので、お城を巡るのが好きです。また、御朱印帳を買って、神社や寺を巡っています。神社の雰囲気もとても好きです。先日は、富士山にも登りました！また、カラオケも好きです。



富士山登頂

帰国前に日本で挑戦したいことや、今後のことを教えてください。

日本の祭りに興味があるので、祭りに参加してみたいです。また、高祖父の故郷、国富にも行ってみたいです。残念ながら交流が途絶えており、親戚がいるかどうかもわからない状態なのですが、国富をゆっくり歩いてみたいです。あとはブラジルでは競技人口がほぼいない野球の試合を見てみたいです。

帰国後は、まずは県費留学生として次の世代に宮崎の良さや宮崎で経験したことを伝えたいです。そして、いつか日本に戻り、大学院で学ぶことが大きな目標のひとつです。

JICA海外協力隊の紹介

JICA 海外協力隊とは、開発途上国の経済・社会の発展 / 復興に向けた活動に取り組んでいただく事業です。

派遣期間：1～2年 ※短期派遣（1～11か月）もあります

参加条件：20～69歳の日本国籍をお持ちの方

活動場所：開発途上国

活動内容：派遣国からの要請に基づき、現地の課題の解決に向けた活動に取り組みます。

活動職種はさまざまで180以上にのびります。

2024年12月現在、26名の宮崎県出身隊員が活躍中です！

地域	派遣国	職種
東アジア	モンゴル	作業療法士
	モンゴル	コミュニティ開発
東南アジア	東ティモール	サッカー
	ベトナム	青少年活動
	フィリピン	障害児・者支援
南アジア	ブータン	看護師
大洋州	バブアニューギニア	小学校教育
	ソロモン	看護師
	バヌアツ	歯科衛生士
	ミクロネシア	野菜栽培
中南米	ブラジル	日本語教育
	ボリビア	小学校教育
	パラグアイ	家畜飼育
	パラグアイ	家畜飼育
アフリカ	メキシコ	品質管理・生産性向上
	ホンジュラス	青少年活動
	セントルシア	作業療法士
	ジャマイカ	青少年活動
	コスタリカ	水質検査
	タンザニア	機械工学
	ガーナ	PCインストラクター
中東	エチオピア	小学校教育
	エチオピア	理科教育
	セネガル	獣医・衛生
	ウガンダ	獣医・衛生
	モロッコ	助産師

※パラグアイでは家畜飼育という職種で2名の隊員が活動しています。

隊員が出発する際や帰国した際に、出身の自治体を表敬訪問します。



JICA 海外協力隊事業がスタートしてから、2025年で60周年を迎えます。これまでの累計では、650名を超える方が宮崎県から海外協力隊に参加されています。実は、人口比で換算すると、全国で上位に入る数字なのです。

地域でのイベントや学校などで、隊員が開発途上国で体験してきたことや、国際協力について伝える活動も行っています！まずは知るところから、世界と繋がってみませんか。



詳しくはこちらから→



JICA のこと、国際協力のこと、お気軽にお問い合わせください。
JICA デスク宮崎 西村真由美



宮崎県国際交流協会ニュース



外国人災害サポートボランティア養成講座 外国人住民向け防災セミナー(えびの市)

10月19日(土)にえびの市で、外国人災害サポートボランティア養成講座(1部)と、外国人住民向け防災セミナー(2部)を開催しました。

1部の講座でやさしい日本語を学んだ日本人参加者が、2部では防災について学ぶ外国人参加者を、やさしい日本語を駆使しながらサポートしました。



日本伝統文化体験講座(新富町)

10月20日(日)に新富町総合交流センター「きらり」にて「浴衣着付け体験」を開催し、外国人16名が日本の伝統文化を体験しました。

篠原弘美先生と補助者の方々の丁寧な指導により、全員が浴衣を自分で着る楽しさを味わい、日本文化に親しむひとときを過ごしました。

参加者からは「温かい雰囲気」に感動した」「また参加したい」といった声が多く寄せられました。



国際理解講座 バングラデシュ編



宮崎大学国際連携センター特別教授のサルダール・シナさんに、バングラデシュの自然や歴史、文化、および現在のバングラデシュの様子などについて

お話いただきました。

参加者は、バングラデシュについて新たな発見をすると同時に、講師が持参されたバングラデシュの衣装を試着したり、日本・バングラデシュ友好ソングのウクレレ演奏と歌に聞き入ったり、楽しい時間を過ごしました。



ひなたにほんご交流会

11月30日(土)に第3回ひなたにほんご交流会を開催しました。日本語教師、日本語学習支援者をはじめ、これから宮崎の日本語教育に関わっていきいたい方など、21名の方が参加しました。

基調講演では、「すみだ日本語教育支援の会」理事の中野玲子氏を講師に迎え、関係者との「つながり」を大切に教室運営についてお話ししていただきました。第2部の交流会では、「宮崎の日本語教育でやってみたいこと」についてグループで課題を共有したり、アドバイスし合ったりして今後の活動に向けて話し合いました。



ひなたにほんごクラス(対面・オンライン)

宮崎県内に住む外国人住民に、地域で生活していくためのコミュニケーション手段として、基礎的な日本語を学ぶことを目的に対面とオンラインで日本語教師による講座を実施しています。

これまでに20カ国、100名を超える方が受講し、宮崎での生活の質が上がったとの声が届いています。



地域日本語教室



県内では約10,000名の外国人住民が各市町村で生活しています。外国人住民が地域社会の一員として生活するために必要な日本語を学ぶとともに、外国人住民と日本人住民の交流を深めることを目的に「地域日本語教室」が県内各地で実施されています。実施状況は「ひなたにほんごナビ(<https://hinatanihongo.mif.or.jp/>)」で確認してください。



上記講座の他、10月~2月に以下の講座、イベントも実施しました。

- ・国際理解講座(ドイツ編、韓国編、エクアドル編、イギリス編) ・国際ふれあいチャット後期(英語・中国語・韓国語)
- ・日本伝統文化体験講座(宮崎市) ・県国際交流員とのおしゃべり会(月4回・通年) ・自治体職員向け外国人支援防災講座
- ・外国人災害サポートボランティア養成講座(宮大) ・日本語学習支援者講座 ・日本語教師研修
- ・日本語教育・多文化共生入門セミナー ・外国人住民による日本語スピーチコンテスト

ちよっぴいさ



ブラジルとの「つながり」

常務理事兼事務局長 永田 耕嗣

ブラジル宮崎県人会創立75周年と宮崎県人移住110周年の記念式典が、去る8月24日にサンパウロ市で開催されました。

本県からは、佐藤弘之副知事、野崎幸士副議長など28名の訪問団が参加しました。宮崎在住でブラジル日系2世の女性のお雛様を里帰りさせ、ブラジルの地で伝統の雛山を飾ろうという綾町雛山実行委員会のメンバーも一緒でした。

式典には350名以上の参加がありましたが、ブラジルからは、日本のブラジル大使、サンパウロ総領事を始め、ブラジル国会議員、サンパウロの州議会議員や市議会議員など多くの来賓が出席していました。これだけ多くの政治家が出席する県人会の式典は他にない地元新聞に掲載していました。

式典の後は祝賀会です。まず、野崎副議長とブラジル和太鼓会長のコラボで迫力ある大太鼓の演奏で始まり、歌謡ショーでは、「燃えてサンバ」という曲が披露されました。

この曲は12年ほど前、NHKの「熱血!オヤジバトル」という中高年アマチュアバンドのコンテストにエントリーしたブラジル日系人バンドの曲で、なんと現在の県人会会長さんが作詞作曲した曲でした。コンテストでは残念ながら本選に

残れませんでした。初めての海外からのエントリーだったことから、特別にNHKの取材を受けた思い出の曲だそうです。

祝賀会の最後に、軽快なサンバのリズムに乗って艶やかな衣装の踊り子さんが登場して、会場の盛り上がりは最高潮に達しました。本県訪問団の面々も踊り子さんたちと一つの輪になって踊り、歓喜と興奮の渦の中でフィナーレを迎えました。

日本から遥か2万キロ離れたブラジルの地への移住が始まって110年、それをお祝いする式典で、宮崎から持ってきた7段の雛飾りとブラジル現地で調達した石や土で作られた伝統の雛山が静かに佇まい、和太鼓の演奏があり、その後情熱的なダンスに合わせてサンバのリズムが鳴り響く。何か不思議な感じもありながら、それでも「つながり」を感じる貴重な体験をさせていただきました。



INFORMATION

みやざき外国人サポートセンターからのお知らせ

みやざき外国人サポートセンターでは、県内在住の外国人のみならず、県外からの生活に関する相談を受け付けています。

【相談方法】対面・電話・その他(email, オンライン)



また、みやざき外国人サポートセンターでは、「宮崎県に住む外国人のための生活情報冊子」(日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語)を発行しています。必要な方は、サポートセンターにご来館いただくか、HPからダウンロード・印刷してお使いください。

ダウンロードはこちら→



みやざき外国人サポートセンター

宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階

TEL:0985-41-5901

FAX:0985-41-5902

E-mail: support@mif.or.jp

URL: https://support.mif.or.jp



Website



Facebook



Instagram

JICAデスク宮崎からのお知らせ

1. JICA海外協力隊 春募集

【応募資格】20歳～69歳までの日本国籍を持つ方

【応募期間】2025年3月21日(金)～5月9日(金)

※応募&職種チェック&その他質問は

LINE公式アカウント(@jica_kyoryokutai) から!

また、海外協力隊webサイトもご覧ください。



2. 春募集説明会 ☆参加無料・当日参加OK

春募集に合わせて、説明会を開催します。宮崎県から海外協力隊に参加し帰国した方の体験談が聞けます。まずは話を聞いてみるだけでも大歓迎!お気軽にご参加ください。

【日時】4月12日(土) 14:00～16:00

【申込み】

【場所】ATOMica宮崎 オープンスペース

(宮崎市橋通西3-10-32 宮崎ナナイロ東館8階)



JICAデスク宮崎

宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階

(公財) 宮崎県国際交流協会内

TEL:0985-41-5901 E-mail: jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

URL: https://www.mif.or.jp/jica-miyazaki/

☆ 賛助会員 入会のご案内 ☆

会費: 個人会員 年間 1口 2,000円 団体会員 年間 1口 10,000円

特典: 協会発行の定期刊行物「ブラザニュース(日・英・中・韓)」・「South Wind」等の提供、協会開催事業の案内、協会開催講座の参加割引、協会HPから団体HPにリンク可能(希望団体のみ)



South Wind サウスウィンド
Mar.2025 Vol.106



企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第106号 2025年3月発行

〒880-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階 TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512

● URL https://www.mif.or.jp/ ● E-mail miyainfo@mif.or.jp

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしています。当協会・本誌に対する意見・要望もお待ちしております。



開館時間: 火～土 / 10:00～19:00
休館日: 日・月・祝日・12月29日～1月3日